

## 肥満治療薬標的分子の機能解析

### 1 研究の概要

肥満モデルマウスの解析から、肥満の原因遺伝子と考えられる機能未知の分子を見いだしている。本分子の細胞レベル、或いはマウス個体レベルの作用を明らかにし、創薬標的としての可能性について検討する。

### 2 研究成果の概要

肥満動物モデルを用いた研究(QTL解析)から、肥満の発症に関わる分子を見出している。共同研究では、本分子の細胞レベル、或いはマウス個体レベルでの機能を明らかにするとともに、創薬標的としての妥当性を評価し、標的治療薬に最も適した対象疾患を想定することを目的として、本分子の遺伝子改変マウスの作製を進めている。

### 3 研究成果の将来の展望

- ・ 本分子の細胞、或いはマウス個体レベルの作用を明らかにすることにより、肥満発症の新機序を発見することが期待される。
- ・ 本分子のマウス個体レベルの作用を明らかにすることにより、創薬標的としての可能性が明らかになる。
- ・ 本分子の機能調節因子を探索することにより最も適した対象疾患を想定することが期待される。